

もっと勉強しとけばよかったなあ

第8期OB 荻野 真央

私が子供の頃、親父やたくさんの大人達が「学生時代にもっと勉強してればよかったなあ」なんていう台詞を口々に言っていたのを覚えています。小生意気な性分でしたので、そんな大人達に私は「遊び呆けていた自業自得だ」と人知れず毒づいていました。それと同時に、そんな後悔じみた台詞を、私は決して言うまいと、強く意気込んだものでした。

小野晃典研究会での勉強と研究に明け暮れた2年間は、かけがえのない財産となりましたし（このことについては、他のOB・OGの皆様が本誌面にて熱弁されていることと愚察致します）、考え方や生き方の骨子にもなっていると日々痛感する次第です。当時の自分からすれば、「この上なく勉強した」と胸を張って言えましたし、上述の大人達を見返すことができたときえ思えるものでした。

現在、小社にて勤務をはじめて早3年の月日が経とうとしています。気が付けば、あの頃の「大人達」の歳に近づいてきました。「石の上にも三年」と云いますが、なんとなく会社の仕組みや、メーカーと流通と消費者の間の、ヒト・モノ・カネの流れ方もぼんやりと理解できるようになってきたような気がします。そんな私が最近ふと感じてしまうのは、悔しきかな、やはり上述の「学生時代にもっと勉強してればよかったなあ」ということです。

職業柄、食品の原材料表記などに目を配る機会が多いのですが、例えば「リン酸カルシウム」とは何ぞや？や糖アルコールが生体に及ぼす影響など、かつて毛嫌いするあまり文系へと進路を決めたような化学や生物学を今更ながらちゃんと学んでおけばと思います。プロモーションなどで景品を扱う際には景表法を意識したり、企業法はもちろんのこと、食品表示法や薬事法などは何かにつけては律儀に制約があったりするので、法学も履修しておけばよかったと思います（例は些かマイクロな気もしますが…）。会社の財務諸表を見たり、ブランドや商品の損益計算などをしたりするときは、どうして商学部なのに1年次の必修科目である基本簿記止まりで会計学を学ぶのをやめてしまったのだろうともったいなく感じます。アベノミクスが世の中を騒がして久しいですが、為替変動に伴って原材料費が大きく変動することを痛感し、マイクロ・マクロ問わずに経済学をもっと勉強しとけばよかったとも思います。海外事業に携わるときは、大学受験時をピークに弱体化させてしまった語学力を恨んでさえしてしまいます。そして、何よりも、マーケティング論という多岐に渡る学問を、小野晃典研究会という学問的障壁のない機関において学んでいたにも関わらず、その恩恵を上手く活用できてなかったなあときえ思ってしまうたりします。

学生当時に、不要だと思ったり、どこか他人事のように邪推したりしていたあらゆる教育が、今更になって実はとても有り難く、無駄のないものだったのだと感じるようになりました。気が付けば、あのとき

の大人達と同じことを思ったり、言ったりしてしまっています。「学生時代にもっと勉強してればよかったなあ」。

あんまりくよくよしていても仕方がないので、出来る範囲から勉強することになりました。現在は英会話教室に通ったり、日経新聞を読んだり、絵に書いたようなリーマンの勉強法を実演しております。加えて、奇しくも小野晃典研究会を卒業してからになりましたが、日本プロモーション・マーケティング学会の資格認証試験を受験し、先日晴れて同学会の学会員となることになりました（いつの日か、現役生による毅然とした発表を学会員側から聴けるのを楽しみにしています）。

日系企業の実務界では、まだMBAが評価される体制が十分に整っていないように思いますし、我々「文系」出身者は、会計士や税理士、弁護士などの国家資格保有者が優遇される一方、資格非保有者やそれ以外の学問を学んできたという経歴は、どうも評価されづらい状況を逸せていないように思います。技術者よろしく理系に決して負けないのだと、小野晃典研究会こそが旗手となって世間に証明できるよう、一介の門下生として、今後も精進していきたいと思えます。

小野晃典先生、OB・OGの皆様、大学院生の皆様、現役生の皆様には、2014年も大変お世話になり、誠にありがとうございました。2015年も変わらぬご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。



大勢のOB・OGが参加した、今年の三ゼミ合同三田論中間発表会&懇親会後の集合写真（著者は後列中央）